

日曜日には TVを消せ

SPECIAL
PROGRAM

★75.1.19(日)

★ユーミン生誕記念
特別番組★

★制作★PHC・TV
豊橋=札幌

★提供★混血桃色通信
(PHC)

幸せがほしい
松本 隆作詞/樋口康雄作曲・編曲

さよならの歌をかかてる風に
おびえる肩をかばってくれた
ひろい胸も今は想い出
木枯しのなかでふれあった手の
暖かさだけを 胸に信じて
愛の行方さがすふたりよ

※愛はなせ傷つきほほえみを忘れて
かたくなな心でうつむいて生きるの
幸せがほしい やさしさがほしい
ひとは誰もそう願うのに※

「幸せがほしい」
は「となりの
まゆみ」。最近い
ちばん好きな歌で
TV主題歌です。1月14日
は、ぼくの誕生
日でした。
オメデトウ。

▽本誌とは別に「YOTAMA」MAO合作で「となりの」

誕生日

目をさまし、
まだカーテンをひかず、
薄暗い部屋で
今日が誕生日なのを思う。
もう一度目を閉じると
こんどは夢でなく
本当にあった
さまざまなことの向を
心が旅していく。
ある時は何かをさけて
ある時は何かにつかっ
はね返りながら
結局、今日にむかって進んでいた。
そのジグザグなはずの道が
ふりむいてみると
まっすぐなものになっているのは

▶左に掲げたユーミンの詩は、最近このぼくが
いちばんココロひかれた文章です。
ユーミンの詩を読み、ユーミンのうたを聞き
佐々木昭一郎のエッセイを読み返し、くさの島
少女を想うと、それは、ぼくの中ごひとつ
になる。
ユーミンのうたは、すべて、佐々木昭一郎の
いうくあるはずのない場所へくいるはずのない
人へのあこがれだ。単なるノスタルジーでは
なく、真実の私を伝えよう、ユーミンはうた
う。真実の私は、真実の他者でもあるのかもし
れない。出会いは、出会い=コミュニケーション
の不可能性の中にこそあり、一瞬のきらめき
だからこそ出会いなのだともいえる。

▶ぼくが、いわゆるミニコミを始めたのは、3
年前、20歳の誕生日からだ。そんなふうには、
を区切る根拠はなかったのだが、3年間ウロウ
ロジタバタした末に、結局、ぼくが伝えよう
としていたものは、自分自身だ。

となり(N・T・V・キ・9じ)特集を「アイちゃんが行く」の力で近日発行の予定

もしわたしに
過去にもどることが許されても
わたしは……
きつと同じことをするだろう。
今になって後悔されることには
すべて帳消しにしてしまおうには
わたしが生まれるよりも
もっともっと昔にさかのぼって
それを始めなければならぬし、
よく考えると
そうまでもくやむことは
ないような気がするから……。
これまでに、そしてこれから
わたしのじゃまをし、あるいは導き
意ばせたり悲しませたりする
「何か」とは
自分自身だということにわかった今、
過ぎていったことがみんな
わたしの中で楽しい思い出になっているのを
ただ感謝したい。
大人へのドアがもう閉じてしまっただけ
これでもいいのだと思う。
今日のわたしは、今日のわたしがいちばん好き
明日のわたしは、明日のわたしが
きつといちばん好きになるだろう。

1973. 荒井由実

ユーミン=荒井由実 1954年1月19日生
LP「かこうき雲」「ミスリム」(東芝)
上の「誕生日」という詩は「かこうき雲」に
付いているマックレットより

がわかった。ぼくがくみて感じたことす
べてをく記憶に留めようとして、と同時に真
実から遠く離れたぼく自身とのコミュニケー
のための方法として、ぼくはミニコミという形
を借りたのだ。ミニコミとて、片側伝達を超え
られない。そのことに、ぼんやり気付いたぼく
は、対象としてTVをえらんだ。それは、逆説
めいてしまうが、他のメディアよりもくTVの
とく私とのコミュニケーションの不可能性が
大きいからだ。
ユーミンはうたっている。「返事はいらない」
と。



井上ひさしが編集を担当するように
なった「面白半分」が、大々的にTV局
Vを取り上げていく。一つのTV局
のCFを一日中ながめて、それをすべて採録す
るというふうな、おおよそ誰もやろうとしなかつ
たことをやっている。井上ひさしが、N・T・Vの
井原高忠との対談の中で、徹夜のあとには「カリ
キュラ・マシーン」をみてから寝ることにして
るというのがうれしい。ぼくも同じようなこと
をやっているからね。

▶オ2次・混血桃色通信・オ2号(陽陰また池
お)の発行は、2月頃になります。12月の後半
はカゼひきっぱなしで、何も手につかなくて、
その後は1月中旬まで帰省していたため、一向
にはかどっておりません。

▶年賀状、お便り、カンパ、プレゼントetcを
寄せて下さったみなさん、ありがとう。
<豊橋市東小浜町129・白井オ・藤田真男>